熊日1964.08.14

水俣病の子らに愛を

熊短大、水俣市立病院 "励ます会"の会員募集

「水俣病にかかった子どもたちを物心両面から励まし、前途に明るい光を与えよう」と熊本短大社会科の社会事業学研究会と水俣市立病院が中心になって「水俣病の子どもを励ます会」を結成することになり、いま会員募集を行なっている。

同短大社会事業研究会の内田守教授、学生ら会員八人はさる八日から三日間水俣市に出張して患者の家庭や市立病院を訪問、患者を見舞うとともに、その社会調査を行なった。

その結果、患者七十四人のうち十八歳未満の年少患者は三十四人（四五％）もおり、このうち十八人はいわゆる胎児性水俣病、二十六人が学齢児童であった。またこれらの年少患者はほとんどが重症患者で、歩くこともできず、目も耳も侵され、食事もできないという、まるで生きるしかばねのようだったという。

現在、これらの患者は半数以上が市立病院に入院、各種の治療を受けており、残り数人は市内の学校の特殊学級に通学している。ことし末には湯の児に温泉療養所が完成、ここで社会復帰の治療が行なわれているが、脳神経を侵されている重症患者はそのリハビリテーションにもほど遠く、子どもの将来は種々の困難が伴うものと予想されている。

そこで同研究会と市立病院ではこれらのかわいそうな子どもたちを物心両面から励まし、子どもの将来を明るいものにしてやろうと「励ます会」を結成することを思いつき、会員募集に乗り出したもの。内田教授らは今後会結成の趣意書を各方面に配布、広い層からの協力者を求めることにしている。」